



里親編 - セッション6 「自己評価の質問」

1. 養育者は、

- a. 子どもたちとのつながり作りに力を入れる必要がある。子どもたちの基礎的生活を守ることあまり重要ではない。
- b. 子どもたちの基礎生活を守り、誰かが世話をしてくれているということを感じさせることが重要である。
- c. 子どもたちの社会的能力を高めるために、基礎的生活を守り、子どもたちに周囲とのつながりを促す必要がある。
- d. 子どもたちの世話をしながら、子どもたちとのつながり作りに時間を費やす必要がある。

2. 子どもが機嫌を悪くしたとき、健全な養育者は、

- a. その子と一緒に機嫌を悪くして、その子を脅して、安心させる。
- b. 動じずに、落ち着いて優しく振る舞い、その子の機嫌の悪さに振り回されないようにする。
- c. 笑い、微笑みかけ、子どもを笑わせようと試みる。
- d. 何事もなかったかのように振る舞う。

3. 子どもたちが健全な愛着を形成すると、その子たちは成長してから、

- a. 他の人との信頼関係を築く傾向がある。
- b. 自分だけを信頼する傾向がある。
- c. 養育者だけを信頼する傾向がある。
- d. 仲間だけを信頼する傾向がある。

4. 健全な愛着を形成した子どもたちは、養育者がそばを離れるときに、

- a. 悲しくはなるが、すぐに安心して、遊び始める。
- b. 嬉しくなる。
- c. 絶望する。
- d. 何らの反応もしない。

5. 苛酷に扱われて育った経験がある養育者は、

- a. それを忘れるよう努力する。
- b. 同様に子どもたちを苛酷に扱う。その理由は、それによって自分が鍛えられたからである。
- c. どうしたら、もっと寛容なやり方で子どもたちと接することができるか考えてみる
- d. 子どもたちに、他の子どもたちを苛酷に扱うように教えて、自己の権利の守り方を教える。